

立科町ってどんな町？⑦

～発表（立科小でのクイズ大会）～

長野大学企業情報学部教授 前川道博先生

実施日：令和3年12月7日（火）



前川先生の講座の第7回目は、立科小学校の4・5年生対象に、クイズ形式で発表を行った。『立科町ってどんなまち？』をテーマに10月から探究してきた内容を、グループごとに発表した。長野大学の前川先生と地域おこし協力隊の芳賀さん司会進行のもと、女神湖・古町の獅子舞・鳴石・津金寺・植物・長門牧場・ジビエ・マンホールについてそれぞれが考えたクイズを出題し、小学生に答えてもらった。小学生は元気に手を挙げ、生き生きとした表情で答えてくれる姿が印象的だった。クイズの解説を高校生が行うと、小学生は熱心に耳を傾けてくれた。自分たちが調べたことをただ調べただけで終わりにするのではなく、発表の場を設けていただいたことで、人前で発表することや、他人に何かを伝えることのむずかしさを感じた様子だった。今回の

活動の経験を来年度の地域学でも活かし、地域のことをさらに深く学んでいきたいと感じる機会となった。

【生徒の授業日誌より】

・発表に向けて7回にわたり立科町のことを学んできた。自分たちは津金寺に行き、四季折々の環境の変化を学び、知ることができて良かった。小学生と交流するうえで、楽しんでもらうためにどこを工夫するか、アイデアを班の人や先生方と協力して考えた。小学生はかなり物知りだったけど、なかなか関わることのない小学生と交流することができて楽しかった。なかなかできない経験ができて本当に楽しかったです。

・小学生は自分たちより物知りだった。積極的に答えてくれてやりやすかった。最初はどううまくいか不安だったけど、みんなとても元気が良かったので、不安が取り除けた。

・カタクリのことにに関して、もう少しちゃんと調べればよかったと思った。もう少しはきはきと話せればよかった。自分たちが調べ、発表したことを、小学生がほんの少しでも覚えていてくれたらいいなと思いました。

・小学生は問題を出すと楽しそうに答えてくれたので、やりやすかった。とても緊張していたので、小学生に救われた。自分たちより小学生のほうが詳しくてびっくりした。人前で話すという経験は少ないので、とてもいい機会になった。

・自分の発表はなかったけれど、他の人の発表がうまくいっていたのでよかった。小学生も発表者の話をよく聞いていて、クイズにもしっかり答えてくれていたので、小学生にとっても高校生にとってもいい時間になったのかなと思った。

・小学生に発表をして、答えを言ってくれて安心しました。花が開花するころには道の駅にもきれいな花がたくさん咲くので、一人でもみんなとでもいいの見に行ってくれたらうれしいと思いました。私たちの発表をしっかり聞いてくれてうれしかったです。